親しく正しく和かに
当山先々代三吉日照上人の提唱による当山スローガンです
揮毫＝大本山本興寺御開土大平日晋上人

季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）
本覺山妙壽寺が発行する寺報です。
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに
広くお読みいただければ幸いです。

寺楽寿 てらす

No.58
令和６年９月１日発行

本覺山　妙壽寺〈法華宗（本門流）〉
〒157-0061　東京都世田谷区北烏山 5-15-1
電話 03-3308-1251　FAX.03-3308-7427
ホームページ　http://myojyuji.or.jp

リレーコラム No.14

境内と墓所に寄せて　西澤國光

私は23年間、妙壽寺の境内及び墓所の手入れと管理を行って参りました。

初めは秋でしたが、兎に角落ち葉掃き、当時はブロアー（強力な風を放出する電動工具）はなく、すべて手による作業でした。あまりの広さと大変さに三日で辞めよう思ったものです。今とは異なり、温暖化はさほどでもなく、冬は寒くはありましたが、夏は過ごしやすい気候でした。春彼岸は多くの方々がお参りいただき、今とは比べものにならないくらいの人出があり、秋彼岸はお線香の香がたちこめる中で、手探りで来山者の墓所をご案内しました。年末年始は、お飾りの準備手伝い、また、正月墓参の方々への対応でした。

そしてお寺にとり一番多忙なのは七月お盆です。当時は、前職の露木家の家屋に居て（その後、今の管理棟を新築）、四月からお盆までは除草に大変苦労致しました。この頃、墓地の通路が整備（飛び石敷石の設置など）され、除草などもやり易くなり、お檀家さんからも好評でした。大変な仕事である一方、お檀家さんへ対応に少しずつ慣れて、励ましや感謝をされ、叱咤激励もあり、やり甲斐を感じるようになりました。

お寺の一年は春夏秋冬、その景色も変わりますが、法要行事などさまざまで、日頃の任務としては、土日に迎えるご法事のために各檀家さんの墓所を点検清掃することです。法要のお参りの折りにおつしゃっていただくお礼は、うれしいものです。

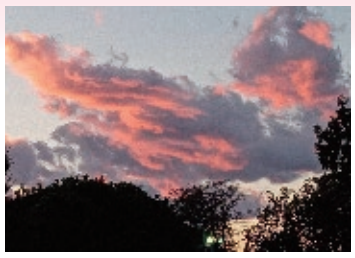
また、宗門の役職にある住職を運転での送り迎えも大変ではありましたが、頑張って参りました。時に、私の母校（烏山北小）からの依頼で、「ようこそ先輩」の授業を受け持ち、竹細工（竹とんぼ・うぐいす笛）を教えました。また生徒の境内見学の折りには、松ぼっくりやどんぐりなどをお土産にしてとても喜ばれました。晩秋の恒例行事である竹灯籠能では、早くから竹灯籠を作り、スタッフと共に境内などに配置して点火演出、来場者に喜ばれたことは忘れられません。

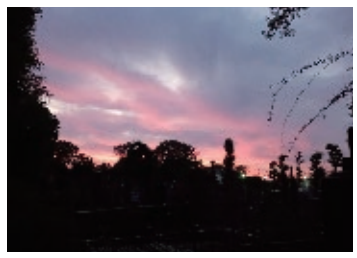
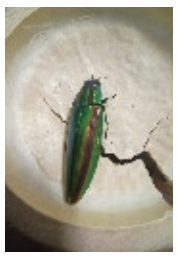
私は、年内で引退する予定で、新しく中村俊一氏が引き継ぐことになります。長い間のお付き合いに心から感謝を申し上げる次第です。

彼岸花には、曼珠沙華（マンジュシャゲ）という別名があります。曼珠沙華とは、サンスクリット語で「赤い花」。この別名は仏教の用語が由来といわれており、法華経には彼岸花について記載されている部分も存在します。

西澤さんの日々

撮影：西澤國光



寺日記 てらにっき

- ●5月17日　久美夫人高松叔母一周忌　於 箱根山阿弥陀寺
- ●5月28日・29日　全国宗務所長会
- ●5月31日　弁護士法人長谷川法律事務所・代表弁護士就任披露と感謝の集い
- ●6月2日　日暮里啓運寺佐々木寿乃上人入山式
- ●6月3日　棚経打ち合わせ会 ❷
- ●6月11日　都仏理事会
- ●6月14日　都仏常務理事会
- ●6月15日　築地円正寺・倉沢豊明先生令嬢結婚式　於 帝国ホテル
- ●6月16日　淡交会「お家元とのつどい」　於 椿山荘
- ●6月17日　新著『永岡成美について』資料撮影
- ●6月19日　全日本仏教会理事会　於 京都・都ホテル
- ●6月23日　総代会
- ●6月24日　石田日天上人令孫来山 ❸
- ●6月27日　都仏総会　於 浅草寺五重塔院・浅草ビューホテル
- ●7月1日～15日　当山棚経
- ●7月16日　当山盂蘭盆会施餓鬼法要 ❹
- ●8月15日　終戦戦没者80回法要

法要のご案内（別紙参照）

9月22日（日）
秋季彼岸会中日法要
初座：午前11時　第二座：午後２時　動物諸霊法要：正12時

10月12日（土）
正隆会課外活動
御会式御逮夜法要と清興落語会
会場：当山猿江別院（江東区猿江 2-5-14）
最寄り駅　都営・営団地下鉄線　住吉駅

＜プログラム＞
14：30　受付開始
15：00　日蓮聖人御会式御逮夜法要
15：30　落語会開演　出演：三遊亭金朝（演目「ねぎまの殿様」他一題）
17：00　お弁当会食
18：00　解散
参加費：5,000円（参拝参加代、お弁当代含む）
＊詳しくは、別紙を参照願います。

11月３日（日）
宗祖日蓮聖人第743遠御忌御会式
午後1時　法話　　午後２時　法要

予告　令和６年度　法華宗団参（予定）

宗祖750遠忌に向けて信心増進並びに『撰時抄』『報恩抄』述作750年、道善房750遠忌を記念し、師恩に奉ずるべく、霊跡を参拝します。

■期日　令和７年２月13日（木）・14日（金）　一泊二日
■宗祖霊跡
鷲山寺・誕生寺・清澄寺・妙蓮寺・鏡忍寺（小松原法難の地）
■観光　道の駅・海ほたるPA、等

猿江別院御写経会

10月3日（木）・12月５日（木）
令和７年２月13日（木）
※毎回、木曜日 13時～19時　参加費：500円

予告　第14回 竹灯籠能・落語会

日程：令和６年10月27日（日）13:00～　会場：妙壽寺本堂
能（花月）▶浅見慈一　落語▶春風亭一之輔

正隆会【SHORYU-kai】

月例講ご案内
午後２時開催

当山では、毎月第２土曜日午後２時より月例講正隆会を開催しております。仏教や法華経についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人どなたでも参加できます。例会では、毎回１時半より正隆廟墓前法要を奉修しております。

９月14日（土）	勉強会「法華経への誘い」拝読９
10月12日（土）	御会式御逮夜法要と清興落語会
11月　９日（土）	勉強会「法華経への誘い」拝読10
12月　７日（土）	二千遍唱題会・勉強会「法華経への誘い」拝読11
１月11日（土）	初題目・勉強会「法華経への誘い」拝読12
２月13日（木）	『撰時抄』『報恩抄』述作記念千葉団参
３月　８日（土）	東京大空襲慰霊法要 勉強会「法華経への誘い」拝読13

俳句事始

皐月　水無月　文月

大山の水辺には無き蓮華かな
みどり摘み散髪よりも心地良し
新竹の皮を脱ぎ捨て空目指す
愛蛇の薄暑を避けて石を這う
尊菜（じゅんさい）の箸先逃げる新芽かな
さくらんぼ届きて嬉し玉光り
犀川の畔の座敷単衣舞ふ
大賀蓮古伝（いにしえ）へ芳しき

鴉鵠

当住上人の宗務院 DIARY

5/21 内局会議、責任役員会議、理事運営委員会
5/22・23 第79次法華宗宗会 ❶
5/28・29 全国宗務所長会
7/26 内局会議

鵠沼・晴明庵　７月23日 蘭盆会施餓鬼法要
猿江・猿江別院　６月13日・８月８日　写経会

新規墓所ご案内

３尺×４尺＝６基
３尺×３尺＝６基
２尺×２尺＝８基
詳細は当山までお問い合わせください。

インタビュー

村田雅一氏（当山総代）
村田キクヱ夫人

聞き手 三吉廣明上人

令和6年3月18日

於 練馬区桜台 村田家

左より、キクヱ夫人、村田雅一総代、当住上人

村田家先祖と映画「男の花道」

住職 日は宜しくお願いします。実は一昨日、秋山さん（多恵子夫人は村田総代の長女）のところに行ってきました。そうしましたら、村田ご総代が團十郎の「助六」に因んだ俳句を奥様（キクヱ夫人）の書道の額が壁にかかっていて、すぐ分かりました。

今日は、村田ご総代にかねてお伺いしたいと思っておりました。以前、私が何度か日本橋の旧宅にお盆でお伺いしていましたが、そのときに村田家がなぜ江戸に出てきたかというお話をされました。それは江戸時代、幕末の頃ですか。

村田総代 （以降敬称略で、村田）よく分からないですが、昔、古川ロッパと長谷川一夫の映画がありましてね、それは「男の花道」という昭和16年に公開された映画です。3代目の中村歌右衛門が江戸へ出てくる途中で、東海道のどこかで目が見えなくなって、そのとき半井（なからい）という医者が治してくれて、目が治ったんですよ。

住職 歌右衛門というのは、もともと上方歌舞伎ですか。

村田 上方3代目（編集注：江戸時代に活躍した歌舞伎役者。安永7年～ 天保9年）で、上方でやっていたんですね。

住職 ああ、そうなんですか。もう歌右衛門というと江戸歌舞伎というイメージですね。

村田 ええ、そうです。その映画の筋というのは、歌右衛門が（芝居を）やっているときにどこかで大名に呼ばれて、大きなことを言って、お医者さんは歌右衛門ならいつでも呼びつけられると言った。それなら呼んでみろと。芝居をやっている最中なんですよね。そのときにそこへ行って、誰かがこういうことを言っていると。歌右衛門は、実はこういうことで先生に治していただいたんだと。観客が、そんないいことなら行ってこいと言って、全部芝居を途中でやめて、そこで挨拶して、また帰ってきてという筋なんです。

そのときに歌右衛門についてきた男衆（編集注：役者などの身の回りを世話する男）が村田家の先祖じゃないかと言われているんです。

住職 ということは、江戸の終わりぐらいに村田家は、その歌右衛門が上方から江戸に出てくるときにご縁があって、そのまま江戸に住み着いたと。

村田 歌右衛門は上方に帰ったりしたんでしょうけど、その人は男衆みたいな形で江戸にいたんだろうということなんです。

住職 それは、おおよそですけど、今の村田さんから何代ぐらい前になるんですか。4代とか5代ぐらいですか。

村田 4代ぐらいじゃないかと思います。昭和19年か20年の2月に家が空襲で焼けたときに、位牌だけは持ち出せたようです。

住職 それは伺っています。

村田 あのお位牌の中で、天保に亡くなった人がいますが、その後で奥さんのほうが、2人並んでいますからね、明治なんですよ。だから、男が先に死んで、それでそのおばあさんが、私から見るとひいおばあさんのもう1つ前かな。要するに、上野の戦争（官軍と彰義隊による戊辰戦争）のときに逃げたようです。そういうことがあって、恐らくそのもう一代前の人が多分そうではないかと、私は思っています。調べれば分かると思います。

住職 それで、歌右衛門についてきたひいおじいさんと思われる方は、江戸で歌舞伎役者になるのですか。

村田 ならないです。男衆というのは大体あまりなっていないみたいでしてね。

住職 男衆というのは、歌舞伎の興行が行われるときにいろいろと世話をする人ですか。

村田 黒子です。舞台では黒い衣装を着ている人です。

キクヱ夫人 （以降、敬称略でキクヱ） それと、衣装つけとも言っていました。

村田 私の大おじで、私の父親のおじです。それで、15代目の市村羽左衛門（明治7年～昭和20年）というのは、今の羽左衛門の前に、ちょうど長州戦（長州征伐）の年に疎開していて亡くなるんですけども、その人の衣装つけをやっていたんです。

住職 おっしゃっていました。冒頭で話したように、すぐに奥様の字だと分かったんですよ。「雅一句」と書いてあった。あれはご主人が俳句（華やかに助六はねて春惜しむ）を詠んで奥様が書いたんだなと思って。

キクヱ そうなんです。

住職 それをお嬢さんとご主人の秋山（博司）さんに言ったら、「住職、よく分かりましたね」と。いつもの奥様の字がより洒脱な感じになっていて、いつもはぱりっとした感じですが、ちょっと優しく書いているなと。

キクヱ 俳句です。それで、私も、下手な俳句で、下手な字でということで、書道展に出すものがなくて、主人の俳句を結構書いているんですよ。

住職 なるほど、そうですか。

キクヱ あれはちょうど歌舞伎座を壊すときの、最後の海老蔵のお芝居を主人と2人で観に行ったんです。それで、そのときに主人がぱっと俳句を作ったんですよ。それを書道展に出したんです。

住職 團十郎も、私も河東節（かとうぶし＝浄瑠璃の一種）に関係していますが、もううれしかったです。

キクヱ 私は團十郎が好きで、最近ちょっとおやせになっちゃって。本当にあれは思い出の俳句なんですね。歌舞伎座を壊す前の人間国宝の方がたくさんいらっしゃいましたが、新歌舞伎座ができたときは、結構皆さん亡くなられていて……。富十郎さん、芝翫さんもいないし、雀右衛門さんもいない。

村田 お寺もね、私と一緒の方が誰もいなくなっちゃったですね。息子さんの代になっちゃったもんね。私のほうもやっとこさ、老老介護というわけにもいかないから、今は家を出ました。施設を探すときの条件で、1つはこれ（お酒を呑むしぐさをされて）ができるかどうか。（笑）それと、もう1つは、ある程度外へ出てもいいかと。普通のところはなかなか外に出られないんですね。1人じゃ外に出してくれないんですね、なかなか。

住職 壊す前は人間国宝の方がたくさんいらっしゃいましたが、新歌舞伎座ができたときは、結構皆さん亡くなられていて……。富十郎さん、芝翫さんもいないし、雀右衛門さんもいない。

村田 お寺もね、私と一緒の方が誰もいなくなっちゃったですね。息子さんの代になっちゃったもんね。私のほうもやっとこさ、老老介護というわけにもいかないから、今は家を出ました。施設を探すときの条件で、1つはこれ（お酒を呑むしぐさをされて）ができるかどうか。（笑）それと、もう1つは、ある程度外へ出てもいいかと。普通のところはなかなか外に出られないんですね。1人じゃ外に出してくれないんですね、なかなか。

江戸時代のファミリー・ストーリー

住職 では引き続き伺いたいのですが、そのひいおじい様ぐらいの代に江戸の中後期に出てきて、先ほどお話があったように、そのおじ様が羽左衛門の衣装つけをしていたとかというお話でした。村田ご一族は日本橋に住まれて、主なお仕事は何でしょうか。

村田 主な仕事というのは、男は少なかったのかもしれないですが、芝居にはあまりタッチさせないような感じがあったみたいですよ。だから、私の大おじだけが衣装つけをやっていまして、あとはやっていないんですよ。それで、女のほうは大体日本舞踊の先生をやっていた。その血がずっとつながってきているので。

住職 でも、それはどうして……。そうなると、そのひいおじい様ぐらいのときに江戸日本橋――そのときから日本橋だったのですか。

村田 主に日本橋だと思いますよ。その辺は詳しく分かりませんが。

住職 どういう関係で猿江の妙壽寺のお檀家になられたのですか。

村田 さあ、その辺は全然分かりませんね。

住職 もともと、先ほどの東海道のどこかで（編集注：映画では三島。沼津には法華宗の本山がある）歌右衛門さんとご一緒になったのか。

村田 半井（なからい）というのはお医者さんの系統ですね。「男の花道」の筋は、伝承ですからね、確実にそうかどうかというのはちょっと分かりませんけどね。

住職 そのひいおじい様の娘さんとか、あるいはお嫁さんが踊りの師匠で、つながっていくわけですか。

村田 ええ、そうですね。踊りの先生で、どこでどういうことなのか知らないけど、男は役者をやってはいけないという掟のようなものがあったようですよ。だから、男は、衣装つけはやっていますけども、役者はやっていないですね。だから、女ばっかり中村流の日本舞踊の先生を、家元が中村歌右衛門（現在の家元は中村梅彌さん）でね。

住職 もうそこからのつながりなんですね。

村田 そうです。歌右衛門から芝翫になったり、いろいろありますけども。

住職 お父様のお仕事は……。

村田 父親は、小学校を出たときは奉公させられた。

住職 何の奉公ですか。

村田 奉公へ行った先は、日本橋横山町の化粧品問屋でした。そこへ小僧で行ったんです。

住職 独立したのですか。

村田 そう。自分で独立して。

住職 ちょうどあの後で、私も知らなかったのですが、村田さんの日本橋のお宅の辺りは、中小の薬屋さんとかが多いですね。

村田 多いです。

住職 問屋街のエリアですね。

村田 エリアとしてはそうです。ただ、もともとはそこで踊りを教えていたところですからね。

住職 では引き続き伺いたいのですが、そのひいおじい様ぐらいの代に江戸の中後期に出てきて、先ほどお話があったように、そのおじ様が羽左衛門の衣装つけをしていたとかというお話でした。村田ご一族は日本橋に住まれて、主なお仕事は何でしょうか。

村田 主な仕事というのは、男は少なかったのかもしれないですが、芝居にはあまりタッチさせないような感じがあったみたいですよ。だから、私の大おじだけが衣装つけをやっていまして、あとはやっていないんですよ。それで、女のほうは大体日本舞踊の先生をやっていた。その血がずっとつながってきているので。

住職 でも、それはどうして……。そうなると、そのひいおじい様ぐらいのときに江戸日本橋――そのときから日本橋だったのですか。

村田 主に日本橋だと思いますよ。その辺は詳しく分かりませんが。

住職 どういう関係で猿江の妙壽寺のお檀家になられたのですか。

村田 さあ、その辺は全然分かりませんね。

住職 もともと、先ほどの東海道のどこかで（編集注：映画では三島。沼津には法華宗の本山がある）歌右衛門さんとご一緒になったのか。

村田 半井（なからい）というのはお医者さんの系統ですね。「男の花道」の筋は、伝承ですからね、確実にそうかどうかというのはちょっと分かりませんけどね。

住職 そのひいおじい様の娘さんとか、あるいはお嫁さんが踊りの師匠で、つながっていくわけですか。

村田 ええ、そうですね。踊りの先生で、どこでどういうことなのか知らないけど、男は役者をやってはいけないという掟のようなものがあったようですよ。だから、男は、衣装つけはやっていますけども、役者はやっていないですね。だから、女ばっかり中村流の日本舞踊の先生を、家元が中村歌右衛門（現在の家元は中村梅彌さん）でね。

住職 もうそこからのつながりなんですね。

村田 そうです。歌右衛門から芝翫になったり、いろいろありますけども。

住職 お父様のお仕事は……。

村田 父親は、小学校を出たときは奉公させられた。

住職 何の奉公ですか。

村田 奉公へ行った先は、日本橋横山町の化粧品問屋でした。そこへ小僧で行ったんです。

住職 独立したのですか。

村田 そう。自分で独立して。

住職 ちょうどあの後で、私も知らなかったのですが、村田さんの日本橋のお宅の辺りは、中小の薬屋さんとかが多いですね。

村田 多いです。

住職 問屋街のエリアですね。

村田 エリアとしてはそうです。ただ、もともとはそこで踊りを教えていたところですからね。

東京大学 日本文化研究会長唄の会で、「越後獅子」を披露
後列左から2人目が村田総代

だけど、今は日本橋本町となっていますけども、場所は同じでも住所のほうが変わっているみたいですね。今、日銀のところは本石町（ほんごくちょう）。だから、本石町のお師匠さんと言われていたというから、場所は移っていないですけども……。

キクヱ だから、日本橋通りや三越通りの界隈の村田眼鏡屋さんは皇居に入っている眼鏡屋さんだとか、あの辺りのお嬢さんたちが踊りのお稽古に来ていました。

住職 そうなると、私の母の生まれが今の日本橋三越の並びの辺りで、本当に間口一間とか二間の小さな日本人形屋さんだったようです。

キクヱ あの辺、人形屋さんがありますね。

住職 「六間店（だな）」（町名）……。

村田 六間じゃなくて「十間店」。

住職 十間だなというんですね。そのうちの一軒が母の里だったと。だから、大正6年生まれの母は、関東大震災のときに、五、六歳で逃げたわけですよ。そのときは人力車に乗せられて宮城に逃げたと。僕らは子供の頃、「キュウジョウ」というと後楽園球場ですけど、皇居のことだと。「宮城」と書いて「キュウジョウ」なんですね。（笑）

村田 僕が新潟支店にいたときに、新潟支店の女子社員が何かで東京へ来るというから、東京へ来るんだったら宮城の前にパレスホテルがあるから、そこで昼飯でも食うかとちょっと言ったら、球場ってどこの球場ですかと。（笑）

キクヱ 笑いましたよね。

村田 天皇陛下のお住まいだったら、あれは「宮城」とは言わなくて、今は「皇居」というんですと。確かにそう言われればそうです。

日本舞踊中村流のこと

住職 最後はまだ、もちろん京都の芝寿さんがいらっしゃるわけですけど、私が一番存じ上げているのは芝賀さん。中村芝賀さんというのは、血縁としてはご主人の……

村田 おやじの妹です。

キクヱ 実の妹でしょう。

村田 本当の妹。もちろん母親が踊りの師匠をやっていまして、それの娘だから。

住職 お正月の元旦に必ずご挨拶に見えるんですよ。今の受付に私がいたときに、何か芝賀のお師匠さんが来ると、ちょっと空気がぴんとするというか。

キクヱ 本当にいいおばでした。

住職 私は芝賀師匠が亡くなったときに、先ほど奥様のほうから今の大奥様が施設に入られたという話を聞きましたけども、本当に、芝翫（先代）さんがおられて、奥様がおられて、その場で円座になって、お弟子さんは全部女性じゃないですか。あら、すごいなとか思った記憶がありますよ。

江戸と今日

住職 今度、真っ先に村田ご総代に読んでいただきたい本は、妙壽寺の江戸時代のお檀家で鴻池屋永岡家について書かれた本です。それがコロナの始まった頃に、私もちょっと病気して退院した後に、いきなりお手紙を京都の同志社大学研究員の先生から頂いて、巻紙で来たからおじいさんかと思ったんですよ。そうしたら、何と40代そこそこの若い研究者で、大変熱心な方で、私は拓本をお送りしました。

そうしたら、喜ばれて、今度何と裏千家の淡交社から『永岡成美について』という一冊の本を出すんです。それにいろいろな話があって、やはり江戸時代というのはいろいろなアップダウンがあり、最後はやはり、明治になると零落してしまう。その一族では流山方面にあった家もあって、そこが新選組に肩入れしたとか、そういうような話もあり、何か非常に面白い。特に面白い話は、江戸時代に永岡家が、4代ぐらい儀兵衛というのを継ぐんです、鴻池儀兵衛というのを。略すと、「鴻池」の「鴻」と「儀」で「鴻儀」というのがよく出てきますが、成美という3代目ぐらいの人が江戸琳派の絵描きの酒井抱一と友達になる。要するに絵を注文するんです。当時は、鴻池は羽振りがよかった時代だから、絵の落款を和紙に押したのを共箱に貼ってあるとか、そういうおもしろい話が結構ありました。

キクヱ そういう話がいっぱいあるんじゃないですか。

住職 いっぱいあって、それが米国のボストン美術館に収蔵されている。抱一の絵だということがだんだん分かってきて、今言った学者の先生が調べたら、江戸の長者番付に、ある時期だけですが、10番内に入っていたそうです。

村田 ああ、すごいですね。

住職 それはすごいことだと。もう1つは、それが淡交社から出版するということは、結局、鴻池さんはお茶のこともかなりやっていた。今、家内も私も裏千家なんですけど、やっぱりその当時、鴻池さんもその代は裏千家の直門だったそうです。

キクヱ 今は何代目ぐらいですか。

住職 結局、明治で零落してしまい（分家さんはお寺に残っています）、今はほとんど分かりません。

それと関連して先々代日照上人がいかにすごかったか、まあ、そういう話になりますが。深川から烏山に越すときに、深川のままでいたら結局土地の――当時の後藤新平東京市長の復興計画ですと、お寺に対して、お墓を1つの小さな区画にまとめなさいということもありました。けれど、そうしてしまうと、鴻池家のたくさんの墓石とか、中沢道二という心学者の墓をみんな1個にまとめるということはやはりできなくて、それで烏山に越してきたのではないかという話があります。さすがに鴻池家の墓は、日蓮聖人のお墓の並びにあるんですよ。それだけ江戸時代に妙壽寺に尽くしたということを、日照上人はよく分かっていた。私は日照上人が亡くなった後に生まれていますから、そういう言い伝えは全く聞いていません。それがすごく分かったので、私的にはこの本が出るということは、こんなにうれしいことはない。ぜひ最初に村田さんにも読んでもらいたい。

キクヱ じいじ、長生きしないと駄目よ、ぼけないように。

村田 話が全然違いますけど、今私、（施設に）入っちゃっていて、やること何もないから本を読んでいるんですけども、以前に読んでいるか読んでいないか、司馬遼太郎の『街道をゆく』は全43巻あるんです。

住職 『街道をゆく』は、めちゃくちゃ面白いです。

村田 あれ、面白いですね、読んでいると。いろいろな土地を訪ねて、実際に書いているのは……。

住職 いや、鴻池さんの本にも出てきますが、私が10代の終わりから20代の頃、白黒のテレビで夢中になった「燃えよ剣」というのは、司馬遼太郎の『新選組血風録』が「燃えよ剣」ですが、その中で、流山で近藤勇が斬首になるじゃないですか。その流山の表記の中に、支援者で「ナガオカ」というのが出てくるんです。ただ、字が、妙壽寺の「ナガオカ」は「永久」の「永」なんだけど、司馬遼太郎が書いているのは「長い」ほうなんですよね。そういうふうに書かれているという話です。

村田 少し変えているんですね。

住職 でも、拓本を取ってもらって、それですごく研究が進んだようです。結局、永岡儀兵衛と名乗っているけど、初代なのか何代なのかというのは、横に没年とかが書いてあるから、江戸時代の、それで特定ができてくるということなので。

キクヱ この間、私、久しぶりにお墓参りに行きました。そうしたら、大分お墓も整備されて、古いお墓が新しくなったりしていますね。

住職 そうですね、だんだんに。

キクヱ そういうときになさるんでしょう。

村田 ああ、そうなんだな。そういえばかなりきれいになっている。

邦楽と青春

住職 それで、私がもう1つ申し上げたいのは、それで合点がいくのは、私も大変お世話になった総代でありました長島伸行さんは早稲田高、村田ご総代は、芝中、芝高に行かれていて……。その後に東大に行かれて、東大で古典文化研究会に入られたのですか。

村田 ええ、一緒です、彼とは。彼はお能をやっていて……。

住職 喜多流ですね。あの当時天才だと言われた喜多六平太さんを非常に尊敬していたという話を聞いておりまして、そのとき村田ご総代は何をやられていたのですか。

村田 私は歌舞伎です。

住職 歌舞伎研究会で学生歌舞伎をやっていたんですか。

村田 学生歌舞伎だね。

キクヱ お染久松の、そのお染になったのね。女形になっている写真が有ります。

住職 だから、私は長島さんを小さいときからよく知っていますから、村田さんはこういう人なんだよということは聞いていました。

村田 僕が歌舞伎で、彼は日本文化研究会という1つのグループがあって、その中に全部、落語とか歌舞伎とかお能も各流全部入って1つの団体にしてあったんです。彼とは同期だから。

住職 村田さんはその後通産省に入ったんですか。

村田 僕はね、大学を出てから、今、日本政策公庫、厳密に言うと、僕が入ったときは日本中小企業金融公庫に入った。

住職 それはもうずっと、大学を出てそこに勤められて、そこで終わられたんですね。

村田 終わったというか、またほかのところにも多少行っていますけどね。

住職 それでは時間となりました。村田ご総代と奥様、本日はありがとうございました。いろいろなお話を伺うことができました。またいつか機会を得て伺いたいと思います。（了）